

タ行

タ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
タアダ	タダ	只。「ナニモシネえでタアダエンノモ辛(つら)エモンダナ(何もしないで、ただいるのも辛いものだな)」
ータエ	…	後ろへ付けて希望を表す。
ダエダ	ダメダ	駄目だ。「ダエダこれ、ソコヌゲデンダモ(駄目だこれ。底が抜けているんだもの)」
タエヘエラグ	タイヘイラク	太平楽。雅楽の一つで即位の礼には必ず演ぜられるものだが、「おめでたい時の楽」から、「好き勝手」、「出放題」、「でたらめ」等に転じたと思う。
ダガサル	ダカレル	抱かれる
タガッポ	タケヅツ	竹筒。「ナゴの袋は、タガッポクツツゲツエエド(イナゴの袋は、竹筒をくっつけるといいよ)」
タガル	タカル	寄り集まる。「蠅タガル(蠅がたかる)」
タゴマル	タグマル	手繰り寄せられた形を「たぐる」と言うが、その東国訛。
タシカ	タブン	多分。不明確の時に言う。明確の時には「たしかに」と言う。
タシナム	タノシム	「嗜(たしな)む」は「好んであることに心を打ち込む」とか、「大いに飲食を楽しみ喜ぶ」から一般に好むの意とするが、「我慢する、慎む」の意もある。「ミナクッチマワネテ、アシタノガニ、タシナンドケ(みんな食べないで、明日の分として我慢しておけ)」
ダス	アタエル	与える、呉れてやる。「この本ダスから(あげるから)」
タッタ	ワズカ	僅か。「タッタこれダゲシカ、採れナガッタ(僅かこれだけしか採れなかった)」「タッタ今、持ッテッタド(今ちょっと前に持って行ったよ)」
ダッチノニ	ダトイウノニ	「明日運動会ダッチノニ、ハヤグネロ(明日運動会だと言うのに。早く寝ろ)」
ダッペ	ダロウ	「コンダノニチヨウ、ハヅンマダッペえ(今度の日曜は初午だろう)」
タデル	タテル	立てる。昔は戸などを外して横に置くが、夜には立てて用いたことから、閉める意になった。「暗グナツカラ戸オタデロ(暗くなるから戸を閉める)」
ダヘ	ダロウ	ダッペの訛
タマセ	ヒトダマ	人魂、魂。「オデラのハガバカラ、タマセ飛んデッタチケド(お寺の墓場から、人魂が飛んで行ったそうだよ)」
タマッコ	タマ	玉にコが付いた。
タランパ	カタグルマ	肩車。「コワグナツタガラ、タランパンノセロ(疲れたから肩車に乗せろ)」

タングルマゲ	トグロヲマク	とぐろを巻く。(蛇が)とぐろをまいたようにうずくまっている。寄り集まっている。
--------	--------	---

チ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
チキショウ	チクショウ	畜生。意に反する時にも出る。
チク チクラッペ チクラッポ	ウソ	昔、チクラの者に嘘つきがいた。「チクラ者は嘘つきだ」から、「チクラッポオは嘘つきだ」になり、「嘘をついたらチクラッポになる」となって、「嘘」が「チクラッポ」「チク」になったのだそうだ。
チチ	ツチ	土
チッコ	チチ	乳、乳房。チは母音が無声化している。
チツチャイ	チイサイ	小さい。「チツチャイ子供をメンドミデやれ(小さい子供を面倒見てやれ)」
ヂツツアマ	ヂイサマ	祖父(じい)さま。男の老人。
チトツテロ	ジツシテイロ	ジツして居ろ。居ろは居るの命令形。「サガヤギ、スツテヤツからチトオツテロ(髪を刈ってやるからジツとしている)」
チャアチャドシテル	シヤアシヤアトシテイル	平気な顔をして居る。知らん顔をして居る。涼しい顔をして居る。
チャブス	ツブス	潰す。「ムシメ来たガラオツチャブセ(虫が来たから潰せ)」
チャマガ	チャガマ	お茶の湯を沸かす専用の釜。「ガ」と「マ」が入れ替わった。
チャン	チチ	父。「オド」と言うことの方が多かった。
チュウハン	チュウハン	中飯(ちゅうはん)。昼飯ではない。日の長い農繁期に昼飯と夕飯の中間にする食事のこと。
チヨオル	タオル	手折(たお)るの訛で「折る」のこと。「オツチオル」「オンチオル」というのが普通。
チヨオツバ	ベンジョ	チヨオツは手水と書いて手を洗うこと。便所へ行って用を済ますと手を洗うことから「手水場」と言い、「便」と言う字をいれなくて便所を表す粋な言葉である。
チンコ	ウソゴト	仮のこと。チクにすること。反対はホンコ。コは～すること。

ツ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ツオエ	ツヨイ	強い
ツウゲツツラ	サムソウナカオ	寒そうな顔。「ツウゲツツラして寒エンダッペ。マット着物着ろ(寒そうな顔をして寒いんだらう。もっと着物を着ろ)」
ツウス	サス	刺す。「とげツウシタのが。エダガッペ(とげを刺したのか。痛いだらう)」
ツッカゲモチ	...	人に責任をなすりつける(相互に)。
ツックルゲェス	ヒックリカエス	ひっくり返す

ツックルンデ	ツツンデ	包みくるんで。くるんでは包むと同意。「カックルンデ」とも言う。「大小を取り混ぜて(平均して)」との意味もある。
ツップス	ツキサス	突き刺す。「アシッピラサ、釘ィツップツシャッタ。エデエヤ(足の裏に釘を突き刺してしまった。痛いよ)」
〃	ウチフス	座った姿勢から伏した様。「どうした、ツップシテ。腹でもエデエノガ(どうした、うつぶせになって。腹でも痛いのか)」
ツトッコナットウ	ワラヅトナットウ	ツトは苞(つと)で包む。始めから藁で包んで苞にして作った納豆のこと。
ツブッコ	...	下着なしで着物を着ること。「ツブッコワダエレデ、サムガッペナ(下着なしで綿入れだけ着て、寒いだろうな)」
ツブヌレ	ツブヌレ	傘なしで濡れること。「ドゴノコドモダガナ、ツブヌレデ、カワエソオニ(どこの子供だろうか、ずぶぬれで、かわいそうに)」
ツメクソ	ツメアカ(スコシ)	爪垢。爪垢のように少しであること。「ツメクソでエエガラクロ(少しでいいからくれ)」
ツヨ	ツユ	露、草葉の露。麺類のつけ汁や液体の食物にも用いることがある。「今朝は夜ツヨがヒドくて、コオタニドップランナツチャッタヨ(今朝は夜露がひどくて、こんなにぐしょ濡れになっちゃったよ)」
ツラッパジガネえ	アツカマシイ	厚顔。面の皮が厚い「カナアネえよ。ツラッパジガネえのには(厚かましい者にはかなわないよ)」
ツラム	ツカム	捕まえるでツラマエルとも訛る。「ヒョッコヌゲ出したガラ、ハヤグツラメエデクロ(ひよこが逃げ出したから、早く捕まえてくれ)」
ツンノッコ	ツルノコ	「鶴の子」という渋柿の名。
ツンノメル	マエノメリ	前のめりに転ぶ。「滑っかツンノメンネえように気ィツケロ(滑るから前のめりに転ばないように気をつけろ)」
ーツァン	ーサン	オトツァン、オンツァンは音便でサンがツァンになった。

テ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
テえ	テアイ	手合い、人々。「試験100点をもらったので、ウヂンテえに見センダ(うちの人々に見せるんだ)」
テえゴ	タイコ	太鼓。囃し方の太鼓の係を「テえゴブヂ」と言った。
デギッコネえ	デキルワケガナイ	出来る訳が無い。「そんなゴドデギッコネえ、デギダラハヅンマ(初午)日延ベンナラ(そんなこと出来る訳がない。出来たら初午が延期になるよ)」*「初午日延べ」はよく使った。
デギモノ	オデキ	腫れ物から化膿して膿が出る皮膚病

テショ	テシオ	手塩, 清めたりする時に撒く塩。その時小さい皿に塩を盛ったことから小皿を「テショ」と言うようになった。
デスツパギ	デシャバリ	出過ぎ者。知らないことでも, 解らないことでもすぐに口を出す, デシャバリ。
デダス	デカケル	出だす。「だす」は「はじめる」で「動き出す」「駆け出す」「やり出す」などと同じ。「サアツキ, デダシタド(さつき出かけたよ)」
テツポダマ	アメダマ	飴玉。昔の鉄砲の弾に似ているから。「このテツポダマア, ムソくてエズマデモ嘗めデラエッカラ, エエナ(この飴玉は長持ちして, いつまでも嘗めていられるから良いな)」
テツパル	デバル	仕事思ったより多くて, 余計に時間を費やす状態のこと。「今日のエネカリヤ, テツパチャツテ, クタブツタ(今日の稲刈りは思ったより大変で, 余計に時間がかかったのでくたびれた)」
テデグ	ツレテイク	連れ行く。「二の午にもテデンから(二の午にも連れて行くから)」
テヌゲ	テヌグイ	手拭い。「テネゲ」とも訛る。
テバダギ	テバタキ	拍手。仕事が終わってごみなどを払い落とすために手を叩くことから、「終わった」時のことを言うようになった。
デレ	オロカモノ	愚か者。罵る言葉。「デレスケ」とも言う。
デロ	ドロ	泥。余り使われなかった。「アリヤマア, デロンケえ(あらまあ, 泥だらけ)になって洗濯大変だ」
テンジョツツラ	ウエヲムイテ	上を天上と言った。天上のことを「テツチョ」と訛って言う。

ト

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
トオジル	...	うどんや蕎麦などが粘ついたら, 水を通してサラリとさせること。
トガ	アヤマチ	非難されるような短所, 欠点。咎・科(とが)。
トガメル	...	傷などが化膿すること
トゴロッカ	トコロドコロ	所々
トゴントゴン	トコロドコロ	所々。「ロ」が「ン」になった。
トシクツテル	トシヲツテイル	年を取っている
ドシポ	ミジカイカミ	髪を短く刈った, 又は剃った坊主頭のこと。「同心坊(どうしんぼう)」の略。同心坊とは, 成人してから仏門に入った僧。
ドヂ	ヂメン	地面
トックニ	トオニ	疾(と)うに。ずっと前に。
トックルゲえス	トリカエス	取り返す
トッケえシ	トリカエシ	取り返し。鶏の糞にも通ず。

トッコム	トリコム	取り込む。「雨ふって来ねエウジニ, トッコン デオエデクロ(雨が降ってくる前に取り込んで おいてくれ)」
トツタガミダガ	ミギカラヒダリ	「取ったか見たか」で「すぐに」の意。
トツツラメエル	ツカマエル	捕まえる
トツギノ	トツテオキノ	取って置きの
ドツプラ	グツショリヌレタ	濡れた様子
トツパドシ	アヤマツテ	その意志は無くてしたこと
トツピンチャン	ツチ	槌。片方の尖った槌類。大は鶴嘴(つるは し)から, 小は小さい金槌や, 割った竹の先 に付けた飴玉の片方が尖ったものもこう 言った。
トツペズモナイ	トホウモナイ	途方もない。あらぬ方向。「コンナトツペズモ ネエホオマデ, 根ツコ這ッテ来テダヨ, コラ (こんな途方もないところまで, 根が這って 来ていたよ, これは)」
ドドメエロ	クロムラサキイロ	黒紫色。桑の実がこの色なので, 桑の実を ドドメと言った。水泳ぎした後や寒い時に唇 がこの色になる。「クチビルドドメエロデ, サ ムガネエガ(唇が黒紫色で, 寒くはないか)」
トバ	トマ	苦(とま)。船泊まり葺きの略。簡単な雨よ け。
トリッコロ	トリクラ	取りくら。「コロ」には競争の意味がある。 「カゲッコロ(かけっこ)」「食エッコロ(大食い 競争)」「押シッコロ(押し合い)」など。
トロ	トロッコ	truck(トラック)の転。土工用の手押し運搬 車。軽便軌条の上を走る。
トンガラシ	トウガラシ	唐辛子
トンピクレン	カワリモノ	変わり者

※赤字の部分は生涯学習課が追加しました。